

大学・高専機能強化支援事業
令和7年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和7年12月9日(火)	区分	支援1
選定年度	令和5年度	大学名	富山県立大学
設置等組織名	情報工学部(データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科)	設置・定員増員年度	令和6年度
事業計画名	富山県立大学情報工学部の新設		

1. 進捗状況の概要

(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況

事業計画が概ね計画通り進捗していることが確認できた。

(2) 好事例や把握された事業の成果

- ・富山県主催の小中学生向けの出前科学授業や高校生向けのアカデミック・インターンシップへの積極的な協力、高校生向け科学技術体験講座の開催など、初等中等教育段階の学校との連携を充実させており、科学・技術への関心を高める取り組みを継続して実施している。
- ・県立大学であることを活かし、地元企業や自治体との連携を活発に行っている。講義等を通じて、県内の企業や産業構造への理解を深めるだけでなく、これらが抱える課題の発見・解決方法の提案に繋がるような実践力を養うものとなるよう、更なる検討を進めている。

2. 指摘事項(留意事項・参考意見)

(参考意見)

- ・社会人学生向けのカリキュラム設計では、オンデマンドやオンライン形式の講義提供も検討に値する。メタバースやモーションキャプチャーなど様々な手段を活用したリスキリングのプログラムを構築すれば、地域の企業等とも更に密着した連携関係にも繋がるのではないかと。
- ・看護学部を筆頭とした既存の学部・学科とも連携した教育・研究体制を築くことで、学生のキャリアパスの構築にも繋がれるのではないかと。特にデータサイエンス学科にとっては、データを様々な分野で活用可能だと実感できるような環境・カリキュラムを提供することで、企業や自治体等との更なる連携体制の構築にも期待ができる。
- ・学部と大学院の6年一貫教育体制を今後検討していくのであれば、低学年のうちから学生が研究室や学内プロジェクトにアクセスできるような接続体制を構築していくことが必要である。
- ・DX 教育研究センターや情報工学研究棟にラーニング・コモンズとしての機能を持たせた空間をすることで、研究意欲の更なる向上が期待できる。